



なるほどなつとくニュース

なつとくんの「なるほどなつとくニュース」は、県立山口博物館のホームページでダウンロードすることができます。

出発地「萩城」跡から、別れの「涙松」まで…「萩往還」PART2

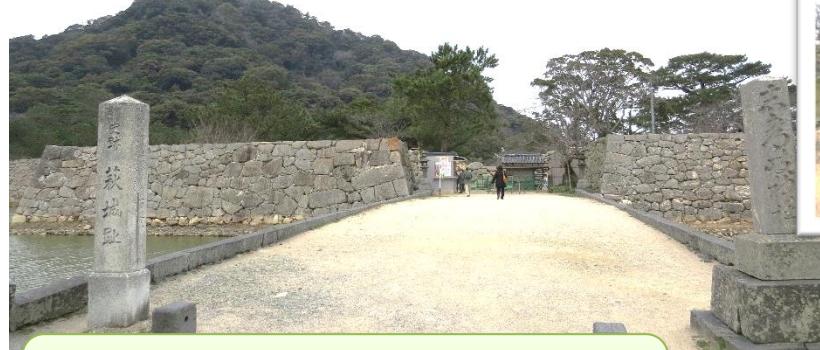
江戸時代に日本海側の萩から、瀬戸内海側の三田尻（防府市）まで、ほぼ一直線に結んだ「萩往還」。その出発

地点がこの「萩城」です。吉田松陰が、「萩」から「江戸」に送られるときに萩の街並みを振り返って歌を詠ん

だ「涙松」に代表されるように、沿線には多くの史跡があります。

3/9

萩城（跡）・国指定史跡



ここを多くの志士たちが駆け抜けていったのでしょうか？ 結構幅広の通路です。



天守閣跡からのながめ



入って左側（城の西側）に進むと、天守閣と本丸の跡があります。萩は三角州なので見晴らしあはなりよかったです。



二の丸（城の東側）には銃眼のついた土塹が復元されています。



城の奥（北側）まで行くと、庭園があり、当時の様子が偲ばれます。

「旧厚狭毛利家萩屋敷長屋」・国指定重要文化財（萩城のすぐ南側）



天井が見えるようにしてあるので、当時の技術がよくわかります。

復元された「唐柵札場跡」・国指定史跡



萩往還は、萩城から札場まで約2kmほど東に進みここから南へ向きを変えます。

「涙松」・萩往還で萩城下が見える最後の場所



木々の間からかすかに萩の街並みが見えます。吉田松陰が「帰らじと思ひさだめし旅なれば一入（ひとしほ）ぬるる涙松かな」とよんで、有名になりました。

拡大

